第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）: 2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：公共事業評価（1）	
日付：１１月　　3　日　（　月　）曜日、セッション時間：　９：００　　～１０：３０	
司会者名（所属）: 織田澤　利守（東北大学）	
討議内容	セッション全体： 各発表論文の内容が異なるため，全体を通しての討論は行わなかった.
	（発表番号 261）　発表者名　（所属）: 広瀬研一郎・小池淳司（鳥取大学） 質問：社会資本はストックとして扱われているか？ 回答：定常状態においてストック量は一定と考え，それを維持するために毎期投資を行うと想定. ｺﾒﾝﾄ 1：経済モデルによる効率性と並行して財政的な持続可能性についても議論していくべき. ｺﾒﾝﾄ 2：世代間の資源配分問題を考える上で，衡平性の議論は避けられない．OLG モデルおける無羨望衡平性に関する既存研究をレビューしてみてはどうか. ｺﾒﾝﾄ 3：発表論文のように，社会資本整備が生産関数，効用関数に影響するのが年金モデルとの違い．ベンチマークとして理論研究を行い，知見を蓄積することに意義がある.
	（発表番号 262）　発表者名　（所属）: 片山慎太郎･小池淳司(鳥取大学)･川本信秀（復建調査設計） ｺﾒﾝﾄ 1：空間分割のメリット・デメリットを整理する必要がある. ｺﾒﾝﾄ 2：比較するケース間で，ロジットのパラメータの推定値を統一すべき. ｺﾒﾝﾄ 3：帰着便益の空間分布構造に関して，頑健性が確認できるのは有益な成果といえる.
	（発表番号 263）　発表者名　（所属）: 越智成基(国交省)･上田孝行(東京大学)･横松宗太(京都大学) ｺﾒﾝﾄ 1：本モデルにおける定常状態について．人的資本ストックのみが一定値となり，物的資本ストックが無限に増加し得るのは違和感がある．物的資本ストックの減耗を考慮すれば，人的及び物的資本ストックの定常状態が一意に決定するのでは？ ｺﾒﾝﾄ 2：経済の成熟化による生産性の低下は，新規インフラの据え付け費用の増加に起因しており，建設部門で起こっているのでは？ ｺﾒﾝﾄ 3：　モデルにおいて，人的資本蓄積の外部効果の定式化が不明瞭である. ｺﾒﾝﾄ 4：収穫一定性を持つ AK モデルを採用していることもあり，内生的成長モデルとして定式化することも考えられる.